

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2192800064 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 高佳会 | | |
| 事業所名 | 馬瀬グループホームいきいき | | |
| 所在地 | 下呂市馬瀬惣島1518番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年7月8日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年8月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800064-00&PrefCd=21&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成25年7月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア、嚥下体操に取り組み、安全でおいしく楽しい食事をして頂いています。施設内に歯科があり治療、ケアに対応しています。 ・自宅での生活と同じ暮らしができ、その人らしい生活、暮らしを支援しています。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>開設3年目のグループホームである。当初より併設している歯科診療所は、地域に定着し、利用者の利便に留まらず、地域歯科医療の拠点となっている。さらに、ドア越しには、小規模特別養護老人ホームがあり、日々利用者同士が交流し、生き生きとした、その人らしい暮らしを続けている。また、職員間でも、共通課題と改善点を話し合い、職員一人一人の成長につなげている。管理者・職員は、利用者の生きてきた時代に思いを馳せ、人生完成の総仕上げの応援団として、満足と生きがいのある暮らしを支援している。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の朝礼で「理念」を復唱し、16のペーシックを毎日1つずつ繰り返して確認し共有している | 理念は「利用者の満足と笑顔を地域に安心と輝きを」毎日朝礼で復唱し、共有している。定例会議やケア会議で確認しながら、満足と生きがいのある暮らしを実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方の移動販売車の利用、民踊、掃除などの慰問、地域の商店へ買い物・食事に行くことで交流を図っている | 自治会の準会員として、地域の掃除・神社の祭り等に参加している。近所からは、季節の野菜・川魚「アユ」の差し入れがある。また、地元の理容師やボランティアの訪問があり、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 御家族様、地域の方へ挨拶・声かけよりに親近感を養い、相談には常に職員がお答えできるように理解できている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 御家族様が参加され、前回会議以降の行事等を報告し、意見を聞いてサービスの向上に活かしている | 会議は、定期的開催して、利用者・家族・行政・地域包括支援センター・民生委員・社会福祉協議会・区長が参加している。事業報告や地域の高齢者情報、家族の意見や要望等を話し合い、サービスの向上に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 各種申請、届出、報告書等の提出は市の窓口へ直接持参するようにして、市担当者や顔を合わせることで協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の窓口へ直接出向き、運営状況を伝えている。申請書類や事故報告、待機者情報、福祉課題全般で意見を交換・相談し、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 家庭的な環境の元、馬瀬の自然な風が入るよう窓は全て開けている。利用者様と一緒に1日1回は外へ出るようにしている | 身体・行動・心の拘束のないケアを実践している。併設の、特別養護老人ホームへの行き来は自由であるが、玄関は、施錠をしている。 | 玄関の出入りは、見守りながら、抑圧感のない、自然な状態になるように期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を受講する機会が少なく、専門職の総合雑誌の職員回覧で学び、職員間で注意を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 研修を受講する機会が少なく介護専門職の総合雑誌の回覧で学ぶ。 入居時には身元引受人の関係で質問を受けた場合は説明を行っている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約は自宅に出向いて行うようにしている。話しやすい環境をつくり、十分な説明により理解、納得を得ている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設運営会議による意見拝聴、施設内に意見箱を設置している。また、面会票にもメモ欄を設けて記入して頂けるようにしている。ユニット会議での話し合い、事務室に掲示を行っている | 運営推進会議や面会時、家族から意見や要望を聞いている。車椅子の汚れの点検や、脳梗塞を患った人への接し方についての要望があり、速やかな改善につなげている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | リーダー会議、ユニット会議を毎月開催し意見交換を行っている | 定例の職員会議で、意見を交換をしている。浴槽が深く、底上げをして介助しやすくしたり、オシボリと、洗たく物を分ける提案や、掃除棚を使いやすいように改善するなどの意見があり、運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 県・団体等が行う各研修について受講するように案内。参加希望職員には勤務について考慮し受講しやすい環境づくりに努めている。職員評価表により向上心が持てるように努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員による自主的な勉強会の実施。法人による研修会を計画して実施している。個々の修得したい研修についても極力参加できるように配慮している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護用品業者が指導者となって勉強会を実施。嘱託医師からの勉強会に参加している。福祉施設の情報誌を回覧しサービスの向上を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 訪室、声かけに心がけ、笑顔で接し信頼関係づくりに努力し、本人のニーズに添って安心して暮らして頂けるように努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | アセスメント時、ご面会時には、管理者・担当者が積極的にお話することで信頼関係を築いている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居にあたり、本人様・ご家族様の希望・心配なこと、不安は何かを見極めるように心がけている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活において、一つの家族と考え、特に家事や畑づくりを中心に支え合うことを大切にしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 担当者は、ご家族様との連絡を常に取り合い、月1回のお手紙により身体状況、生活状況をお伝えすることで関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の店舗、食事に出かけることで、馴染みの人に会いお話しできるようにしている | 馴染みのスーパーマーケットでの買い物や、友人や知人の訪問を促し、継続に努めている。また、併設の特別養護老人ホームの入所者や、歯科診察に訪れた、地域の人たちとも、親しく交流できるように支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 居間となる食事席についてトラブルが起きないように、また孤立されることのないよう、職員同士が常に情報交換を行い利用者同士の関係づくりに努力している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院に伴って退去後に再び入居申込があった。退去後であってもご家族様の相談には応じている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の思いの把握に努め、入浴時間、食事には希望に応じて提供している | 日々生活の中での言動や、生活歴から希望や思いを把握している。興味や関心のある事、嗜好やこだわり等、きめ細かく把握し、より良い暮らし方につなげている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に使い慣れた家具や布団を持参して頂き、どんな生活してみえたかを把握し、在宅での生活からの変化を少なくしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 夜勤→早番→遅番・夜勤への申し送りで利用者の状態を把握し、介護記録にも細かに記入するよう努力している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者の担当者が、毎月モニタリングを行っている。毎月の家族への手紙を実施、面会時には状況を詳しくお伝えしている。毎月のサービス担当者会議で情報交換を行い、介護計画を作成している | ケアマネジャーが、利用者・家族の意向を直接聞いている。毎月、サービス担当会議で、モニタリングの情報を検証し、その人らしく暮らせる介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録には、生活状況、お話しされたことを詳しく記入することにより、ニーズをつかみとるようにしている。利用者のプランを一覧表にして、職員が利用しやすく工夫している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外食、外出、マッサージなど利用者様の思いに添った対応ができる様支援している | | |

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の理容院、傾聴ボランティア、民踊、掃除などの来所にて、馴染みの方との出会いがある。また、地域の店舗への買い物、外食により交流している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者、家族の希望を確認してからだが、併設している特養の嘱託医が、かかりつけ医となりつつある。24時間連絡可能な体制で、相談・指示を受け、往診についても可能となっている | 併設の特別養護老人ホームの嘱託医師を、かかりつけ医として選択している。月に1回、定期診察があり、24時間の連絡体制を取っている。緊急時は、総合病院(下呂病院)と連携している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の体調変化がみられた時は、介護記録に記入し、併設している特養の看護師に相談できる体制にしている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院を要する場合は時間の許す限り、介護職が同行し生活・心身状況を入院先に伝えるようにしている。 退院時には事前に病院へ出向き、状況の説明を受け、利用者・家族が安心して暮らして頂けるよう努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に終末期のあり方について説明している。入所後には利用者の様態によって、家族、施設、医師の3者で今後の方針等について確認している | 重度化・終末期の指針があり、入居時に説明している。状態の変化に応じて、利用者・家族の協力、職員の体制等、方針を共有しながら支援体制を整えている。開設間もない為、看取りの事例はないが、終末期を穏やかに支援できるように検討をしている。 | 終末期の職員教育には、併設の特別養護老人ホームの事例体験から学び、グループホームでの対応力向上に期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 協力医療機関と24時間体制で連絡は可能である。併設する特養の嘱託医を講師として勉強会、マニュアル作りを進めている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の避難訓練を定期的に行い、地域の協力体制ができている。備蓄食糧についても逐次準備している状況である | 年に2回、消防署の指導の下、初期消火・通報・避難訓練、夜間想定した訓練を実施している。地域との協力体制もあり、備蓄品を準備している。職員数名は、周辺に住居があり、駆けつける体制ができている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者を「ゲスト(お客様)」と呼び、人生の先輩であることから、職員一人一人は利用者に対し誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を行っている | 人生の先輩として、尊厳を持った態度で接している。命令口調や指示的態度での言葉かけを禁句とし、目線を合わせ、おだやかな優しい口調で話しかけるように対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者を選択できる声かけを行っている。利用者が何を行いたいのか、してもらいたいのか傾聴し応えている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の暮らしを優先して意向を聞いて、希望に添った生活を支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居時には化粧水など用意して頂き、起床時・入浴後には利用して頂いている。衣服はお聞きしながら選んで頂いている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事メニューには季節の食材、郷土食を取り入れ、作り方を利用者からお聞きし、一緒に食事作りを行っている。食事の準備・片づけについても一緒に行っている | 季節の野菜や川魚の食材で調理している。準備や片付け、調理にも加わっている。職員も同じ食事を一緒に食し、ユーモアのある話題が弾んでいる。食卓の豊かさを実感してもらい、食欲増進につなげている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 併設する特養の栄養士にメニューの基本を作成して頂いている。水分は1,300ccを基準として、好みの物を提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。食事前には嚥下体操を行っている | | |

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表から個別の排泄パターンをつかみ、前もって声かけ・誘導することで汚染や失禁を少なくしている | 排泄パターンを把握し、排泄の失敗体験を極力なくし、さりげなく誘導をしている。ポータブルトイレを使用しないで、トイレ移動を基本として、下肢筋力の低下・関節硬縮の予防と自立に役立っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 10時にヨーグルトを提供し、水分摂取、1日1回の散策、15時のリハビリ体操で自然排便になるように努めている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間は意向をお聞きして入浴を頂いている。夜間入浴にも希望に添って行っている | 週に2回の入浴が基本であるが、希望があれば、夜間でも応じている。信楽焼きの浴槽は、底あげをして介助しやすく改善している。嫌いな人は、タイミングをずらしたり、声かけを工夫し、楽しい入浴を支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床・就寝は利用者のペースに合わせている。日中は穏やかに楽しく過ごして頂き、夜間の良眠につなげている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ファイルにはその方の処方薬を挟み、職員が把握できるようにしている。変更があった場合は、介護記録に記入している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食後の食器拭き、お膳拭き、また、洗濯干したたみなどを担って頂いている。畑、花植え、お手玉作り、雑巾縫いなど、利用者の方の生活歴に合った役割を支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外へ散策に行き、子どもの野球、グラウンドゴルフ、消防訓練などを見学している。地域の商店へ買い物出かける。利用者の希望に添って、出来る限りの対応している | 周辺は、自然環境に恵まれ、日常的に散歩している。ホーム前のグラウンドでのスポーツ観賞、地元のスーパー・薬局・道の駅等へ外出支援をしている。また、家族の協力を得て、行楽地へも出かけている。 | |

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時、家族の同意を得てお金を所持していることで安心して頂いている。買い物に出かけご自分で支払をされる方もある | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持参されている方は知人やご家族と話されている。手紙を書きたいと要望される方もあり対応している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 所々に座れるスペースを作り季節の花や飾り付けを行っている。 毎月、季節のカレンダー作りを行い居室に掲示するようにしている | 廊下の一角に和を中心とした飾り付け、食堂には、季節の花アジサイが活けてある。また、蛇の木目込み置き物にも生活感がある。中庭には、紅葉の木や鹿威しが見えて、季節感がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 併設する特養の知人が会いにみえる。また、出向いたりして交流を図っている。気が合う方とは食席を隣にする、また、自ら誘ってソファや畳スペースで過ごされる | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、馴染みの物を持って頂いている。衣類の整理が出来やすいように、家族と相談されながら中身を表示するなどの工夫をされている | 利用者の、馴染みのものや、収納ケースを持ち込んでいる。それらを家族と共に配置し、落ち着いた居室づくりをしている。携帯電話も(4名)あり、受信専用になっている。趣味の作品や観葉植物を、さりげなく飾り、安心して過ごせるように工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ・居室には利用者、家族に了解を得て目線の高さに合わせ表示している。 つかまれる、座って休める環境作りに努めている | | |